

はじめに

国立情報学研究所では、大学等の研究者の研究活動に関するデータベースである「研究者ディレクトリ」を作成するため、「学術研究活動に関する調査」を実施してきた。この調査は、昭和 36 年以降文部省（現文部科学省）により実施されていたものであるが、平成 4 年度から学術情報センターが引き継ぎ、その後同センターの改組に伴い、平成 12 年度から平成 13 年度まで国立情報学研究所において引き続き実施してきた。

平成 14 年度からは独立行政法人科学技術振興機構が実施する、「研究開発支援総合ディレクトリ」(ReaD)調査の一環として引き継がれた。調査結果は「研究開発支援総合ディレクトリ」(ReaD)で提供され、国内の大学等の研究者についての詳細な情報を知ることができる。

平成 15 年度の同調査は、1,445 の学術研究機関を対象として実施し、1,332 の学術研究機関、約 17.6 万人の研究者から回答が得られた。

本報告書は、我が国の学術研究活動を定量的に把握するため、平成 15 年度の同調査結果を集計しとりまとめたものである。こうした報告書としては、すでに、

- ・昭和 52 年度調査（昭和 55 年文部省公表）
- ・平成 5 年度調査（平成 8 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 5 年度学術研究活動に関する調査結果」情報管理，39(7)，(1996)）
- ・平成 7 年度調査（平成 9 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 7 年度学術研究活動に関する調査結果」情報管理，40(7)，(1997)）
- ・平成 8 年度調査（平成 10 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 8 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 9 年度調査（平成 11 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 9 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 10 年度調査（平成 12 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 10 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 11 年度調査（平成 13 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 11 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 12 年度調査（平成 14 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 12 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 13 年度調査（平成 15 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 13 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 14 年度調査（平成 16 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 14 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）

があり、本報告書は 11 回目のものとなる。本報告書においても、前回と同様、当初文部省が作成した報告書と対照できるような内容、構成としている。

本報告書が，我が国の学術研究活動全体の動向把握に役立てば幸甚である。

1. 調査結果の概要

本調査の対象となった研究者は、平成 15 年 12 月現在、次の諸機関に所属する、本務としての教育職員及び研究職員で大学の助手相当職以上の者並びに大学院博士課程（後期）に在籍している学生、日本学術振興会特別研究員、日本学術振興会研究員（リサーチ・アシリエイト）及び大学等の非常勤研究員全員である。

- (1) 国立・公立・私立の大学
- (2) 国立・公立・私立の短期大学
- (3) 国立・公立・私立の高等専門学校
- (4) 大学共同利用機関，大学入試センター，学位授与機構及び国立学校財務センター（以下，大学共同利用機関等という。）
- (5) 文部科学省及び文化庁並びにその施設等機関（以下，文部科学省施設等機関等という。）
- (6) 文部科学省所管民間学術研究機関（以下，民間学術研究機関という。）

その総数は 1,445 機関で、このうち、この調査に対し回答があったのは、1,332 機関（回答率 92.2%）から、176,278 人であった（表 1）。

以下に、回答の得られた者（以下，これらを「研究者」という。）についての、学術研究活動の状況について述べることとする。

表 1 調査対象及び回答数

機関種別	調査対象数	回答数		回答率
	機関	機関	個人	機関
国・公・私立大学	690	689	158,164	99.9%
国・公・私立短期大学	494	467	11,243	94.5%
国・公・私立高等専門学校	63	63	4,304	100.0%
大学共同利用機関等	19	7	1,150	36.8%
文部科学省施設等機関等	24	15	469	62.5%
民間学術研究機関	155	91	948	58.7%
合 計	1,445	1,332	176,278	92.2%

2. 学術研究者の状況

2.1 専門分野別研究者数

専門分野別研究者数は、表 2 のとおりである。本調査の専門分野の区分は、「科学研究費補助金 系・部・分科・細目表」に基づく研究分野コードを採用している。専門分野別研究者数の構成比率（図 1）を全体で見ると、文学が 12.3%、医学が 12.2%と多く、この両分野で全体の 24.5%を占めている。次いで、工学（7.9%）、複合領域（7.8%）、理学（5.2%）、経済学（3.2%）、農学（2.6%）、法学（1.7%）、広領域（1.3%）の順になっている。また、人文・社会科学系研究者（文学、法学、経済学の研究者）30,421 人と自然科学系研究者（理学、工学、農学、医学の研究者）49,409 人との比率は、38 対 62 である。

研究者をその所属する機関の設置者別に見ると、国立 45.6%(80,310 人)、公立 6.7%(11,729 人)、私立 47.8%（84,239 人）である。

各専門分野ごとに設置者別の研究者構成を見ると、図 2 のとおり、理学（66.8%）、農学（62.3%）、工学（61.0%）など、主として自然科学系においては、国立の占める比率が高く、経済学（73.1%）、法学（67.6%）、文学（67.1%）、広領域（62.4%）など、主として人文・社会科学系においては私立が多数を占めている。

表 2 機関種別・専門分野別研究者数

機関種別			文学	法学	経済学	理学	工学	農学	医学	複合領域	広領域	無回答	計	機関数
大 学	国立	助手以上	4,666	719	986	4,639	6,028	2,266	7,623	5,034	597	16,967	49,525	
		その他	782	87	118	935	1,211	550	1,484	793	62	19,119	25,141	
		計	5,448	806	1,104	5,574	7,239	2,816	9,107	5,827	659	36,086	74,666	88
	公立	助手以上	956	140	334	444	566	253	1,740	629	106	2,946	8,114	
		その他	38	4	7	15	24	24	100	26	5	1,842	2,085	
		計	994	144	341	459	590	277	1,840	655	111	4,788	10,199	76
	私立	助手以上	11,382	1,855	3,614	2,269	4,191	994	8,994	4,861	1,016	19,743	58,919	
		その他	503	101	143	76	160	62	690	171	45	12,429	14,380	
		計	11,885	1,956	3,757	2,345	4,351	1,056	9,684	5,032	1,061	32,172	73,299	526
	計	助手以上	17,004	2,714	4,934	7,352	10,785	3,513	18,357	10,524	1,719	39,656	116,558	
		その他	1,323	192	268	1,026	1,395	636	2,274	990	112	33,390	41,606	
		計	18,327	2,906	5,202	8,378	12,180	4,149	20,631	11,514	1,831	73,046	158,164	690
短期大学	国立	助手以上	24	1	4	0	11	1	17	29	14	29	130	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	44	
		計	24	1	4	0	11	1	17	29	14	73	174	5
	公立	助手以上	188	12	38	16	24	83	229	118	21	348	1,077	
		その他	1	0	1	0	0	0	1	1	0	154	158	
		計	189	12	39	16	24	83	230	119	21	502	1,235	46
	私立	助手以上	2,634	92	324	157	299	249	547	1,453	311	3,169	9,235	
		その他	10	0	1	1	1	1	4	6	1	574	599	
		計	2,644	92	325	158	300	250	551	1,459	312	3,743	9,834	443
	計	助手以上	2,846	105	366	173	334	333	793	1,600	346	3,546	10,442	
		その他	11	0	2	1	1	1	5	7	1	772	801	
		計	2,857	105	368	174	335	334	798	1,607	347	4,318	11,243	494
高等専門学校	国立	助手以上	301	19	21	327	1,239	28	11	378	22	1,385	3,731	
		その他	4	0	0	1	16	0	0	1	0	98	120	
		計	305	19	21	328	1,255	28	11	379	22	1,483	3,851	55
	公立	助手以上	29	1	1	35	106	1	1	26	2	90	292	
		その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	
		計	29	1	1	35	107	1	1	26	2	92	295	5
	私立	助手以上	10	0	1	9	34	1	0	19	6	74	154	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
		計	10	0	1	9	34	1	0	19	6	78	158	3
	計	助手以上	340	20	23	371	1,379	30	12	423	30	1,549	4,177	
		その他	4	0	0	1	17	0	0	1	0	104	127	
		計	344	20	23	372	1,396	30	12	424	30	1,653	4,304	63
大学共同利用機関等	助手以上	25	1	0	206	29	0	16	86	4	185	552		
	その他	0	0	0	26	5	0	0	17	0	550	598		
	計	25	1	0	232	34	0	16	103	4	735	1,150	19	
文部科学省施設等機関等	助手以上	147	1	0	40	9	7	4	44	5	156	413		
	その他	2	0	0	0	0	0	0	2	0	52	56		
	計	149	1	0	40	9	7	4	46	5	208	469	24	
民間学術研究機関	助手以上	68	7	18	38	47	59	129	78	12	327	783		
	その他	0	0	0	3	2	0	0	5	0	155	165		
	計	68	7	18	41	49	59	129	83	12	482	948	155	
合 計	国立	助手以上	5,163	741	1,011	5,212	7,316	2,302	7,671	5,571	642	18,722	54,351	
		その他	788	87	118	962	1,232	550	1,484	813	62	19,863	25,959	
		計	5,951	828	1,129	6,174	8,548	2,852	9,155	6,384	704	38,585	80,310	191
	公立	助手以上	1,173	153	373	495	696	337	1,970	773	129	3,384	9,483	
		その他	39	4	8	15	25	24	101	27	5	1,998	2,246	
		計	1,212	157	381	510	721	361	2,071	800	134	5,382	11,729	127
	私立	助手以上	14,094	1,954	3,957	2,473	4,571	1,303	9,670	6,411	1,345	23,313	69,091	
		その他	513	101	144	80	163	63	694	182	46	13,162	15,148	
		計	14,607	2,055	4,101	2,553	4,734	1,366	10,364	6,593	1,391	36,475	84,239	1,127
	計	助手以上	20,430	2,848	5,341	8,180	12,583	3,942	19,311	12,755	2,116	45,419	132,925	
		その他	1,340	192	270	1,057	1,420	637	2,279	1,022	113	35,023	43,353	
		計	21,770	3,040	5,611	9,237	14,003	4,579	21,590	13,777	2,229	80,442	176,278	1,445

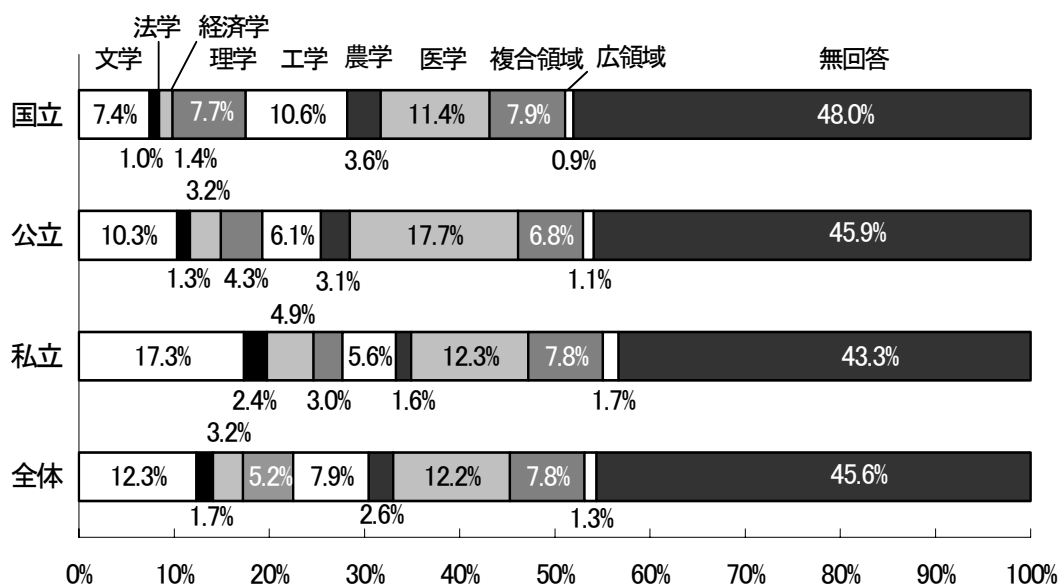


図 1 設置者別・専門分野別・研究者の構成

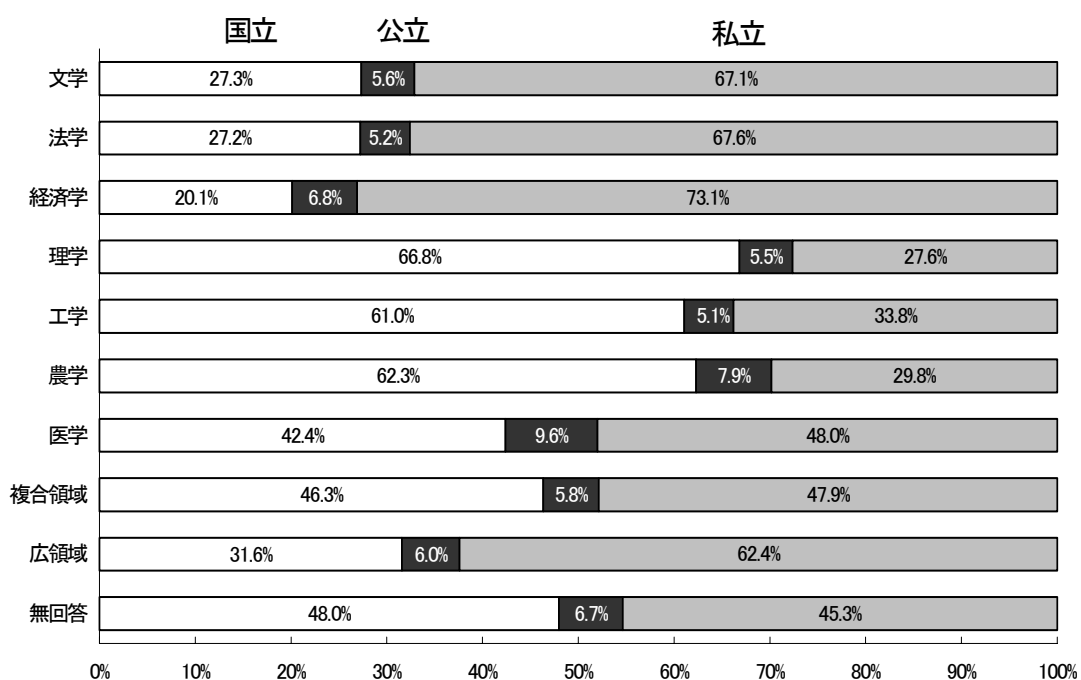


図 2 専門分野別・設置者別・研究者の構成

2.2 機関種別研究者数

機関種別に研究者の構成を見ると、大学の研究者が全体の 89.7%を占める 158,164 人であり、短期大学 6.4% (11,243 人)、高等専門学校 2.4% (4,304 人)、大学共同利用機関等 0.7% (1,150 人)、民間学術研究機関 0.5% (948 人)、文部科学省施設等機関等 0.3% (469 人) となっている（表 2）。

大学、短期大学、高等専門学校について設置者別の研究者数は、表 2 のとおりであるが、その構成比率は、大学においては、国立 47.2%、公立 6.4%、私立 46.3%、短期大学では、国立 1.5%、公立 11.0%、私立 87.5%、また、高等専門学校では、国立 89.5%、公立 6.9%、私立 3.7%となっている。

大学、短期大学における研究者の職名別構成は、表 3 のとおりであり、私立においては、国・公立と比較して教授、講師の占める割合が高く、国・公立においては、私立と比較して、助手の占める割合が高いのが目立っている。また、国立においては、大学院博士課程（後期）（以下、大学院学生という。）の占める割合が目立って高い。

表 3 大学及び短期大学における研究者の職名別構成

職名		全体(%)	国立(%)	公立(%)	私立(%)
大 学	学長・副学長	0.3%	0.1%	0.3%	0.4%
	教 授	30.3%	23.9%	26.9%	37.4%
	助 教 授	18.9%	19.5%	20.5%	18.1%
	講 師	9.0%	5.2%	12.0%	12.5%
	助 手	13.9%	16.5%	18.5%	10.5%
	その他	1.2%	1.0%	1.4%	1.5%
	大学院学生(博士過程)	10.2%	15.8%	5.5%	5.2%
	非常勤研究員	0.6%	1.2%	0.2%	0.1%
	不 明	15.5%	16.7%	14.7%	14.4%
	合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
短 期 大 学	学長・副学長	1.4%	1.7%	1.1%	1.5%
	教 授	37.1%	32.2%	29.1%	38.1%
	助 教 授	26.7%	21.8%	25.8%	26.9%
	講 師	20.5%	6.9%	18.8%	21.0%
	助 手	6.2%	12.1%	12.1%	5.3%
	その他	1.0%	0.0%	0.2%	1.1%
	大学院学生(博士過程)	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%
	非常勤研究員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不 明	7.0%	25.3%	12.6%	6.0%
	合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2.3 年齢

全研究者の平均年齢は、46.7 歳である。各専門分野別に研究者の平均年齢を見ると、経済学が 51.3 歳で最も高く、次いで、広領域 (51.3 歳)、文学 (51.0 歳)、法学 (49.9 歳) であり、一般的に人文・社会科学系がやや高く、以下、工学 (48.1 歳)、複合領域 (48.0 歳)、農学 (47.7 歳)、理学 (47.5 歳) となっており、医学は 45.5 歳と最も若い。以上を設置者別に見ると、いずれも私立の研究者の平均年齢は、国・公立に比べ高くなっている (図 3)。また、男女別の平均年齢は、男性が 47.33 歳、女性が 43.91 歳である (図 4)。

機関種別の研究者の平均年齢では、大学共同利用機関等が最も若く 43.4 歳である。次いで、文部科学省施設等機関等、大学、高等専門学校、民間学術研究機関の順となっているが、短期大学は 51.3 歳と最も高くなっている (表 4)。

職名別に平均年齢を見ると、まず、助手以上については、教授の平均年齢は 57.2 歳であるが、文部科学省施設等機関等の教授は平均 52.0 歳と最も若く、民間学術研究機関では教授の平均年齢は 69.1 歳と最も高い。全体における助教授の平均年齢は 46.2 歳、講師 42.5 歳、助手 37.8 歳である。大学の教授、助教授、講師においては、平均年齢が私立、公立、国立の順になっているが、助手においては、逆に私立は最も若くなっている。ちなみに、学長の平均年齢は、国立 63.3 歳、公立 66.2 歳、私立 66.9 歳となっている。また、日本学術振興会特別研究員、日本学術振興会研究員 (リサーチ・アソシエイト) 及び大学等の非常勤研究員 (以下、非常勤研究員という。) の平均年齢は 31.9 歳である。(表 4)。

研究者の年齢別構成を見ると、全体では 41～50 歳が 26.1% と最も多く、次いで、51～60 歳 26.1%、以下、31～40 歳が 24.0%、61～70 歳 13.1%、30 歳以下 9.7%、71 歳以上 1.0% となっている。(図 5)

これを各専門分野別に見ると、医学 (33.6%)、農学 (31.9%)、理学 (31.6%) が 40 歳以下となっており、若手研究者の占める割合が高くなっている。これに対して、40 歳以下の研究者の占める割合が低い専門分野としては、文学 (18.5%)、広領域 (19.7%)、経済学 (20.5%) があげられる (図 5)。これを人文・社会科学系と自然科学系別に見ると、人文・社会科学系では、自然科学系に比べ、高年齢層の占める割合が高い。

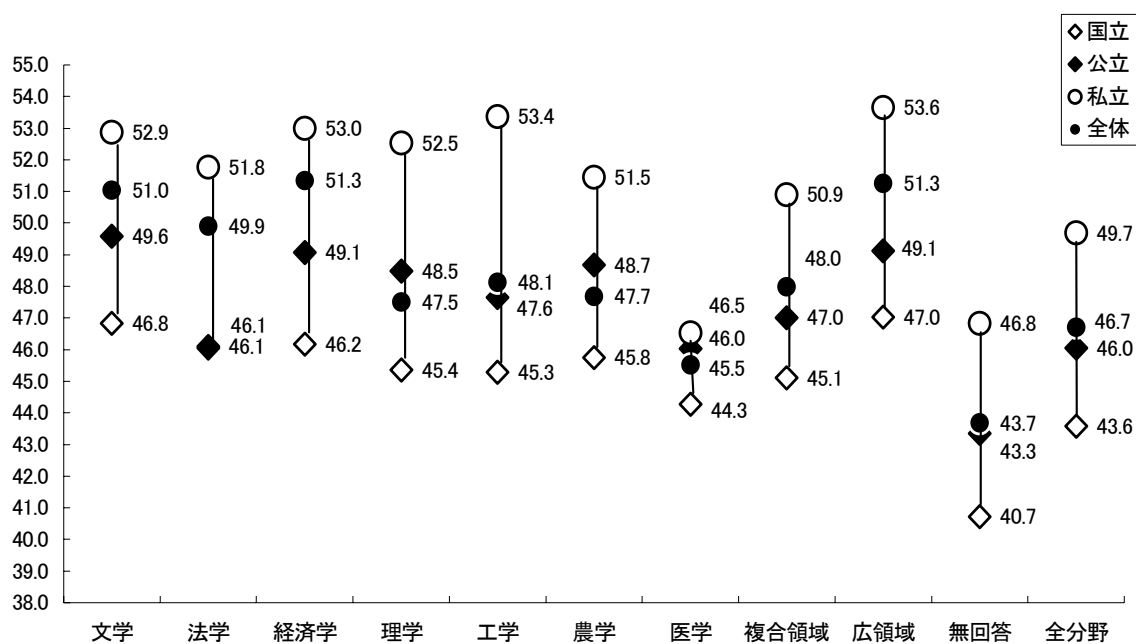


図 3 専門分野別・研究者の平均年齢

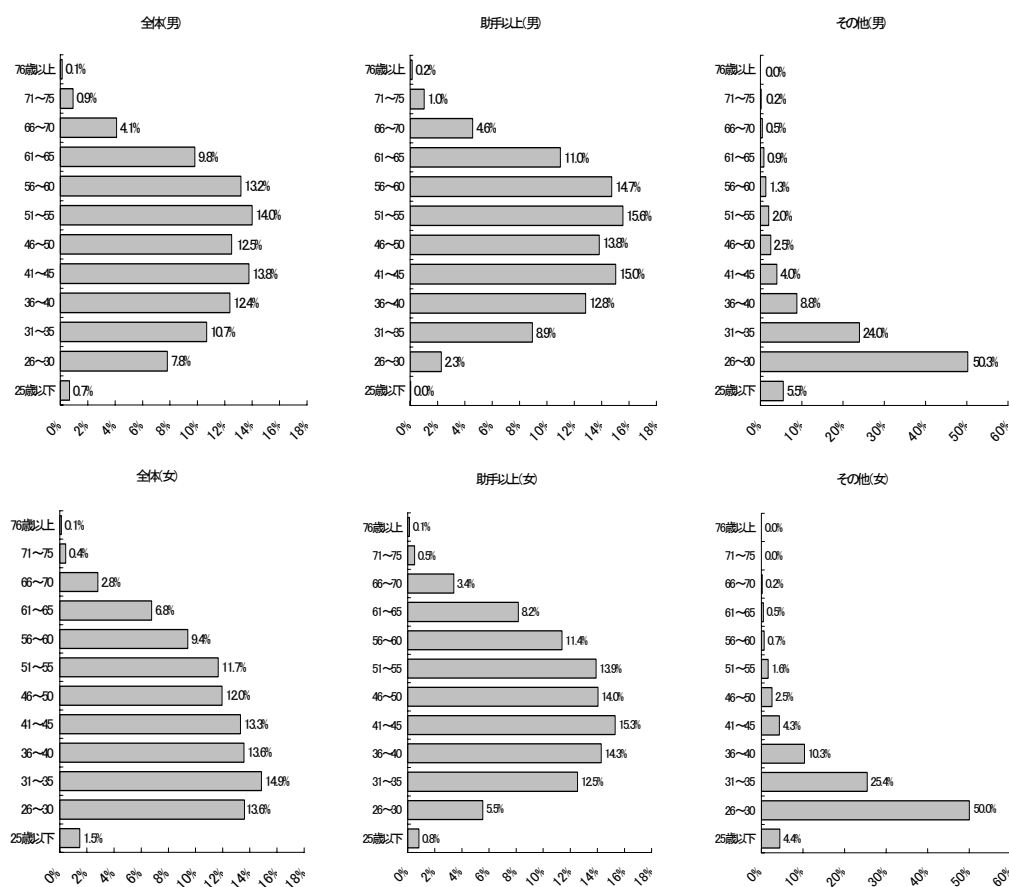


図 4 男女別・研究者の年齢構成

表 4 機関種別・職名別・研究者の平均年齢

機関種別		大学関係の職名						全体
		教授	助教授	講師	助手	学長(備考)	非常勤研究員	
大 学	国立	55.2	44.6	42.0	38.3	63.3	31.3	43.4
	公立	55.9	45.8	42.2	37.6	65.2	36.9	45.8
	私立	58.4	47.6	42.8	37.4	66.8	36.6	49.4
	全体	57.1	46.0	42.5	37.9	65.9	31.8	46.3
短期大学	国立	56.5	48.7	40.7	34.5	57.5		49.2
	公立	56.6	47.3	41.4	37.3	68.6		48.0
	私立	59.0	49.7	43.6	35.1	67.0	54.0	51.7
	全体	58.7	49.4	43.3	35.6	67.0	54.0	51.3
高等専門学校	国立	55.8	43.9	36.0	35.4	63.3		46.9
	公立	55.3	40.2	33.7	31.3			46.7
	私立	57.3	50.9	38.5	26.9	63.0		49.1
	全体	55.8	43.9	36.0	35.2	63.3		47.0
大学共同利用機関等		54.6	46.0	33.0	39.0	73.0	32.0	43.4
文部科学省施設等機関等		52.0						46.2
民間学術研究機関		69.1	50.0	55.7	39.3	68.0	36.2	47.9
全 体	国立	55.2	44.6	41.4	38.2	63.3	31.4	43.6
	公立	55.9	45.8	41.9	37.6	66.2	36.9	46.0
	私立	58.5	47.9	42.9	37.2	66.9	36.7	49.7
	全体	57.2	46.2	42.5	37.8	66.2	31.9	46.7

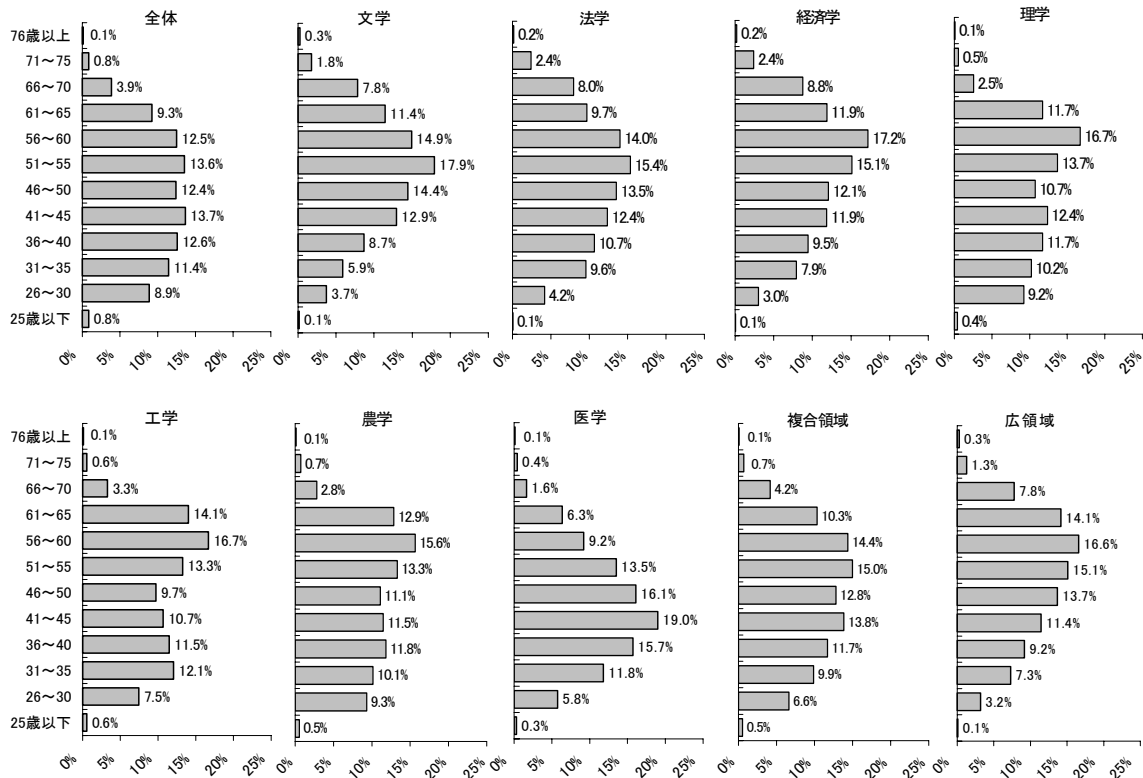


図 5 専門分野別・研究者の年齢構成

2.4 性別

全研究者の男女構成は、男 82.1% (123,208 人) に対して女性 17.9% (26,921 人) である。

専門分野別に男女構成を見ると、女性比率が高いのは、文学 (26.6%)、広領域 (25.3%)、医学 (21.2%)、複合領域 (21.1%) の 4 分野であり、いずれも 20%を超えている。それに対して、工学 (3.5%)、理学 (6.7%)、経済学 (8.0%)、農学 (11.0%)、法学 (12.2%) の各分野では、女性比率が低く、特に工学における女性比率の低さが際立っている (図 6)。

機関種別では、短期大学において女性比率が際立って高く、設置者全体の 45.7%となっている。逆に、高等専門学校においては、女性比率は極めて低く、設置者全体の 4.4%に過ぎない。また、設置者別では、国立において女性比率が低く、公・私立の 6 割程度の比率である (図 7)。

職名別では、いずれの設置者においても、講師、助手、大学院学生、非常勤研究員の女性比率が高くなっている。(図 8)。

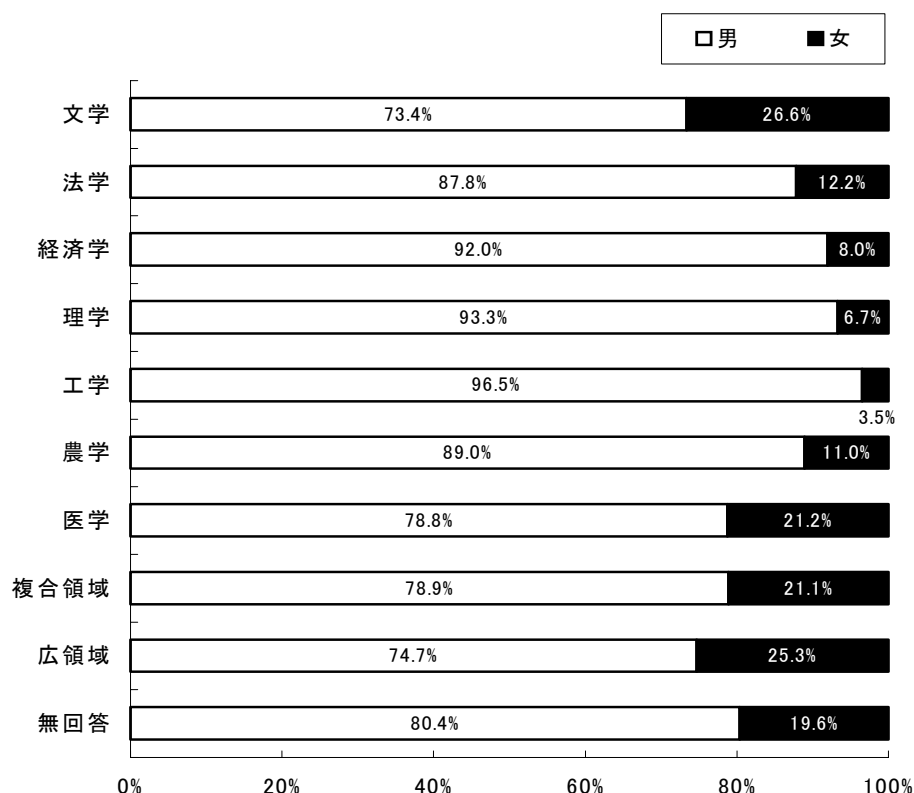


図 6 専門分野別・研究者の男女構成

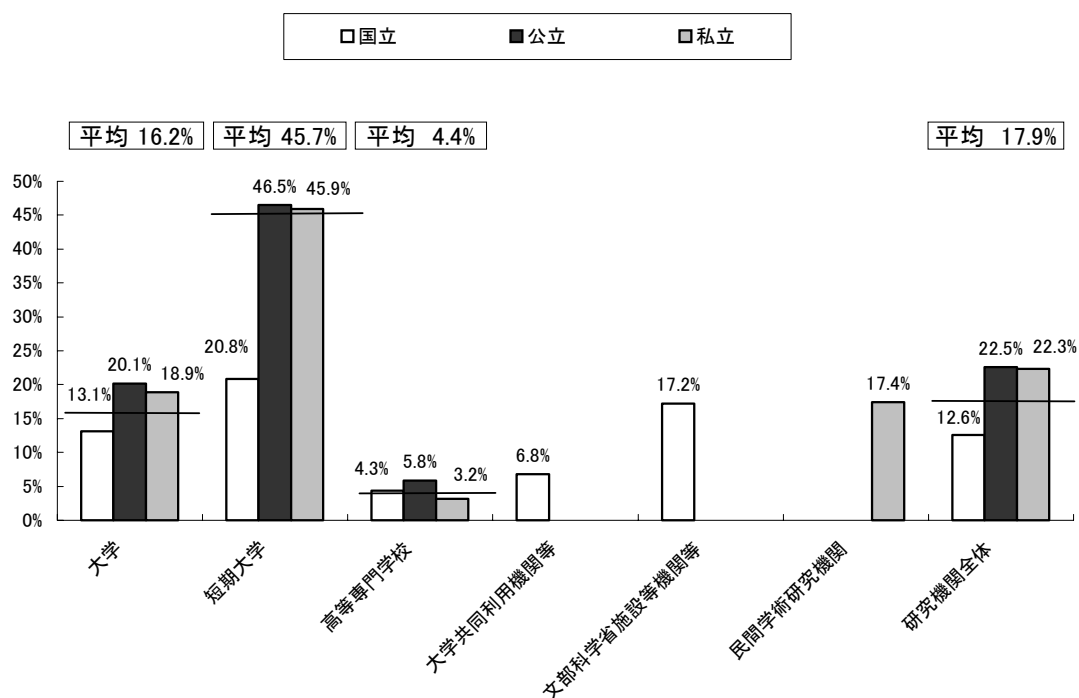


図 7 機関種別・女性研究者の比率

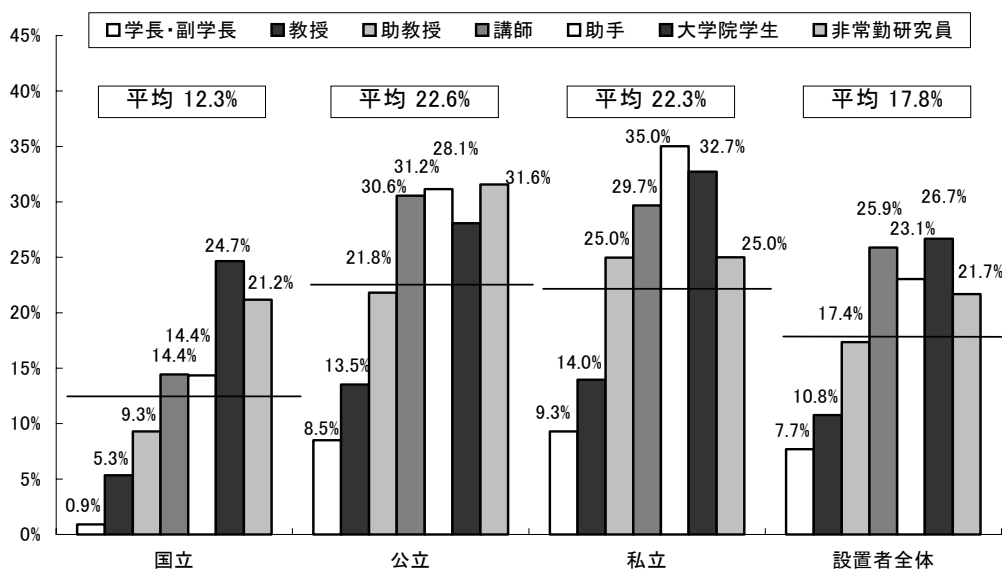


図 8 職名別・女性研究者の比率

2.5 外国氏名

研究者のうち、全体の 2.4%に当たる 4,154 人が外国氏名を名乗っている。

各専門分野における外国氏名保有者の比率を見ると、文学(4.0%)、経済学(2.9%)、広領域(2.9%)の分野で高く、工学(2.8%)、農学(2.7%)、法学(2.1%)がそれに続いている(図9)。なお、文学における外国氏名保有者数は871人であり、これは外国氏名保有者全体の21.0%に当たる。

機関種別に外国氏名保有者の比率を見ると、大学が最も高く、短期大学、民間学術研究機関の順になっている(図10)。

職名別に見ると、全機関種において、大学院学生、非常勤研究員の外国氏名を持つ者の比率が際立って高く、設置者全体の13.6%となっている。学長・副学長を除き講師以上において、外国氏名保有者の比率は、私立、公立、国立の順で高くなっている(図11)。

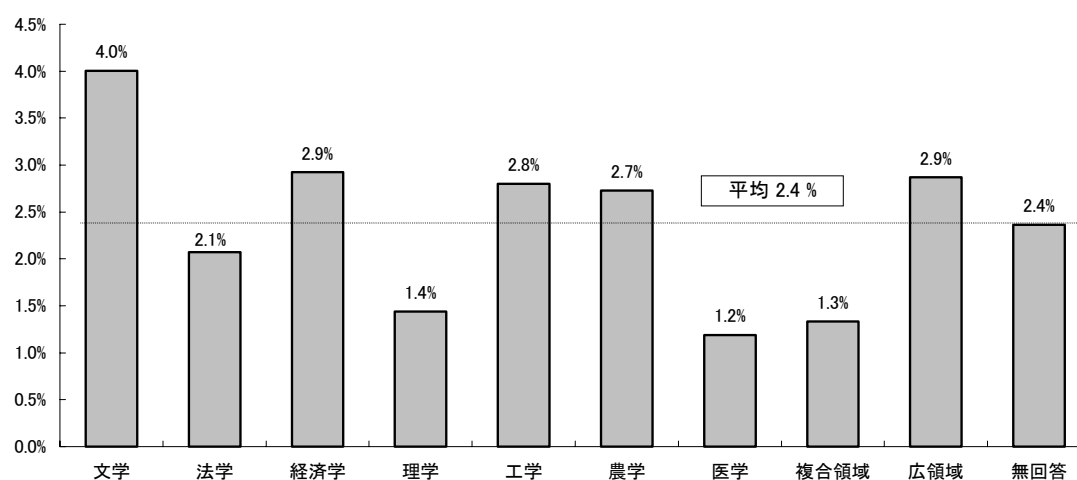


図 9 専門分野別・外国氏名保有者の比率

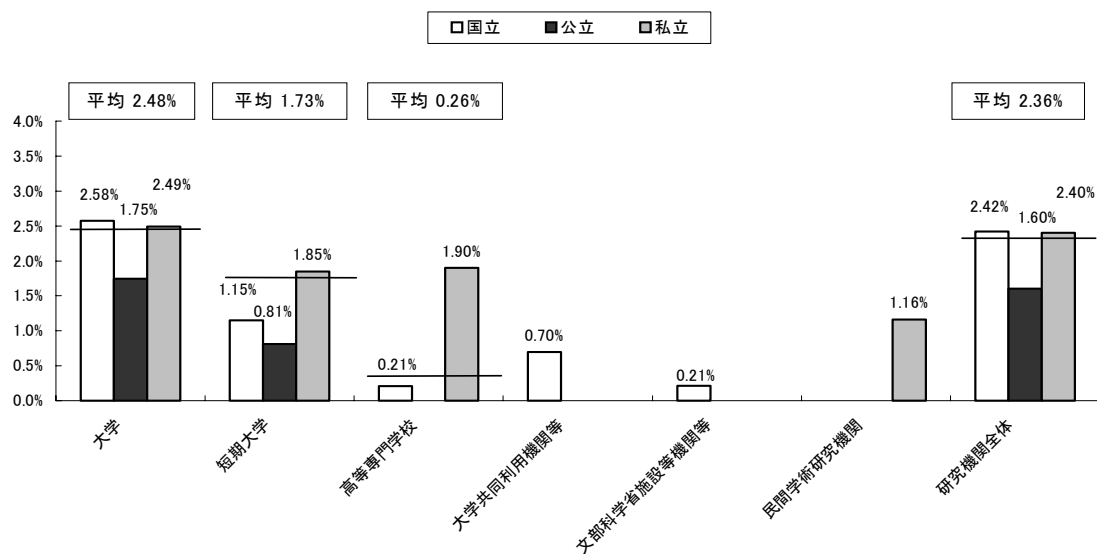


図 10 機関種別・外国氏名保有者の比率

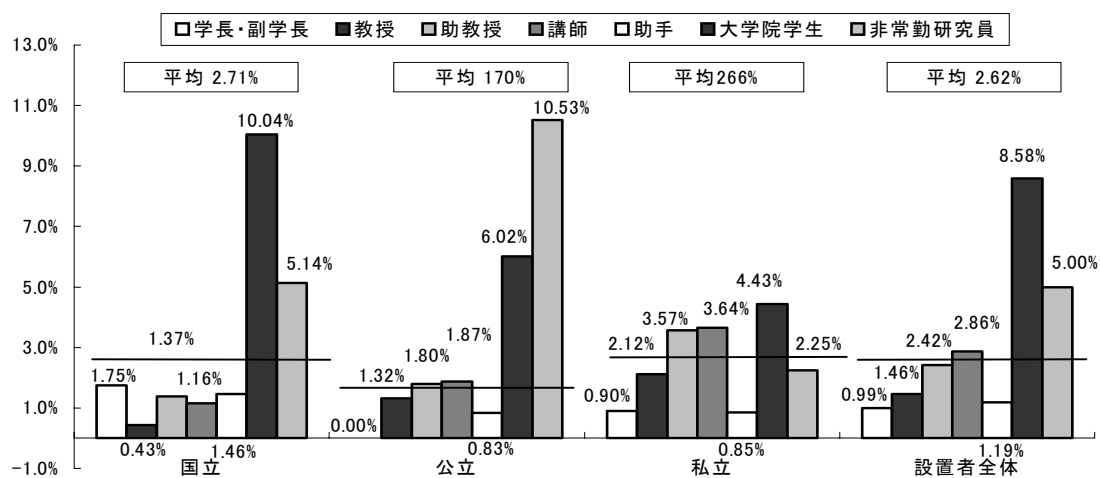


図 11 職名別・外国氏名保有者の比率

3. 学歴

3.1 最終出身学校

研究者の最終出身学校の状況は、大学院修了者が 111,319 人（63.1%）で、このうち、博士課程修了者は 64,712 人（36.7%）、修士課程修了者 44,131 人（25.0%）である。また、大学学部の卒業者が 32,236 人（18.3%）、短期大学その他の卒業者は 32,723 人（18.6%）となっている（表 5）。

専門分野別に研究者の最終出身学校を見ると、大学院修了者の割合は、理学が最も高く 90.3%であり、次が経済学の 87.5%となっている。これらに次いで高い分野が法学と文学であり、それぞれ、86.9%と 84.9%となっている。以下、工学（81.5%）、農学（81.3%）、複合領域（73.1%）、広領域（61.3%）の順であり、医学が 50.3%と最も低くなっている（図 12）。

機関種別に研究者の最終出身学校を見ると、大学院修了者の割合は、文部科学省施設等機関等で非常に高く 78.3%であり、以下、高等専門学校（72.8%）、大学（63.9%）、短期大学（51.4%）、民間学術研究機関（50.2%）、大学共同利用機関等（39.7%）の順になっている（図 13）。

出身学校の所在地について国内・国外別に見ると、回答者の 3.8%に当たる 6,677 人が国外の学校の卒業者である（表 5）。これは、専門分野では、文学（10.4%）、広領域（9.1%）、法学（6.9%）、経済学（6.9%）の分野において、機関種別では、短期大学（3.9%）、大学（3.9%）において、国外の学校の卒業者が比較的多く、全体の平均を上回っている。

表 5 専門分野別・最終出身学校及びその所在地

専門分野	合計 (人数)	大学院				大学学 部(人数)	短大その 他(不明 を含む) (人数)	出身学校の所在地			
		博士課 程(人数)	修士課 程(人数)	課程不 明(人数)	計			国内		国外	
								人数	比率	人数	比率
文学	21,770	10,130	8,072	279	18,481	2,682	607	18,783	86.3%	2,262	10.4%
法学	3,040	1,845	756	42	2,643	345	52	2,735	90.0%	209	6.9%
経済学	5,611	3,654	1,192	63	4,909	620	82	5,041	89.8%	387	6.9%
理学	9,237	5,528	2,745	68	8,341	678	218	8,662	93.8%	229	2.5%
工学	14,003	5,881	5,415	113	11,409	2,172	422	13,171	94.1%	495	3.5%
農学	4,579	1,942	1,723	57	3,722	770	87	4,360	95.2%	108	2.4%
医学	21,590	7,699	2,874	290	10,863	9,906	821	20,388	94.4%	380	1.8%
複合領域	13,777	5,324	4,578	163	10,065	3,230	482	12,984	94.2%	430	3.1%
広領域	2,229	537	703	126	1,366	695	168	1,935	86.8%	202	9.1%
無回答	80,442	22,172	16,073	1,275	39,520	11,138	29,784	49,053	61.0%	1,975	2.5%
計	176,278	64,712	44,131	2,476	111,319	32,236	32,723	137,112	77.8%	6,677	3.8%

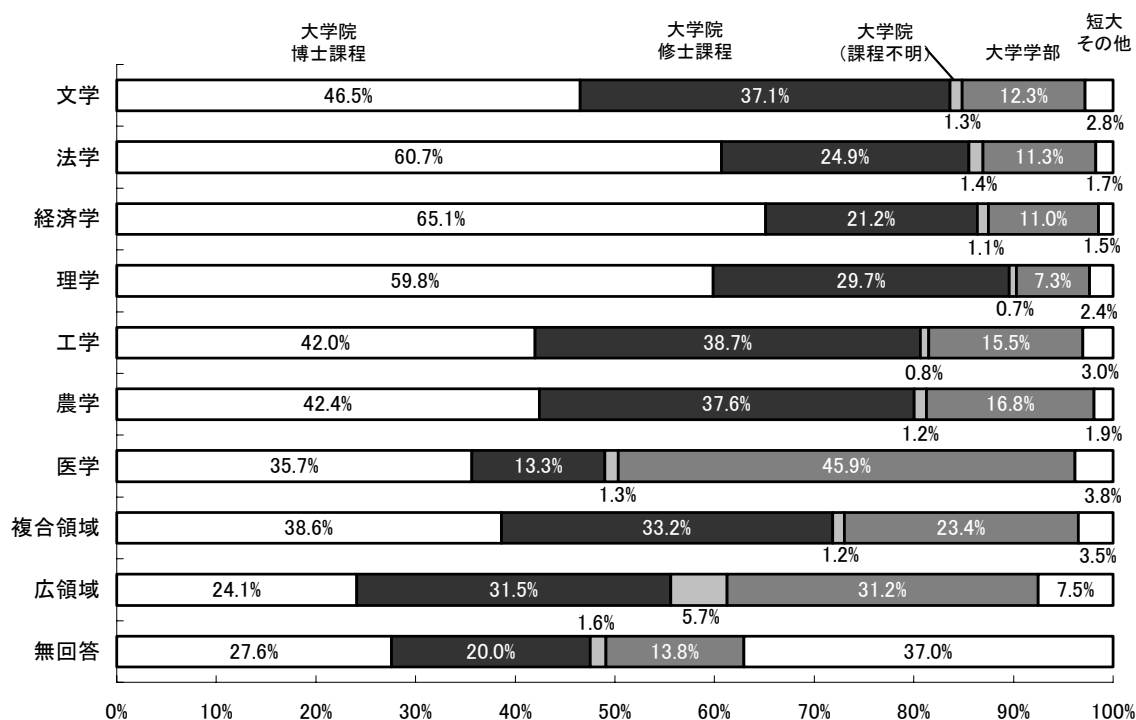


図 12 専門分野別・最終出身学校の状況

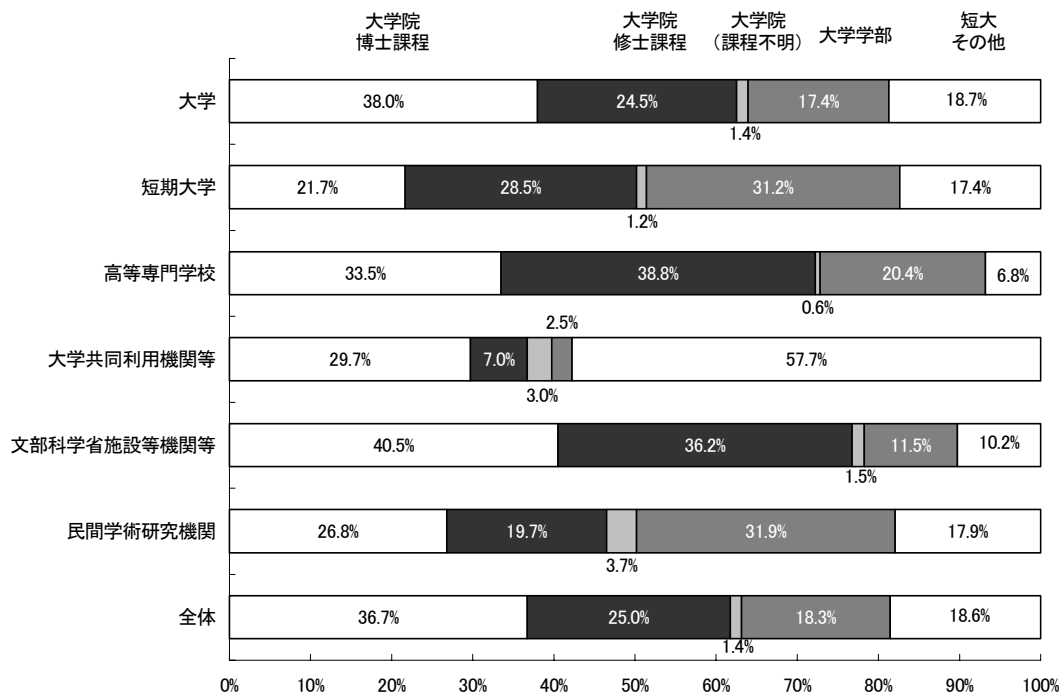


図 13 機関種別・最終出身学校の状況

3.2 博士学位取得の状況

研究者の博士学位取得状況を見ると、77,697 人が取得しており、これは、全研究者の 44.1% に当たる。取得学位の種類としては、工学博士が最も多く、全体の 26.5%、次いで、医学博士 (23.8%)、理学博士 (16.8%)、農学博士 (6.8%) であり、以下は図 14 のとおりである。

専門分野別の博士学位取得者の割合は、理学 (79.4%)、農学 (74.5%)、工学 (73.6%)、医学 (68.9%)、複合領域 (50.8%) において高くなっている。また、文学、法学、経済学の分野においては、博士学位取得の割合は極めて低く、それぞれ 20.3%、25.8%、33.2%である (図 15)。

機関種別に博士学位取得者の割合を見ると、高等専門学校の実験研究員の取得率が最も高く 51.3%、次いで、大学 (44.7%)、大学共同利用機関等 (44.5%)、民間学術研究機関 (42.5%) の順であり、文部科学省施設等機関等 (28.1%)、短期大学 (15.8%) においては、比較的取得率は低い。なお、国立機関の実験研究員の学位取得率は、49.3%と概ね半数を占めている (図 16)。

次に、大学研究者について、職名別に博士学位取得状況を見ると、学長・副学長の 64.7%、助教授の 60.0%、講師の 60.2%、教授の 59.5%、助手の 56.4%が博士学位取得者となっている。また、非常勤研究員は、71.4%と最も高い (図 17、表 6)。

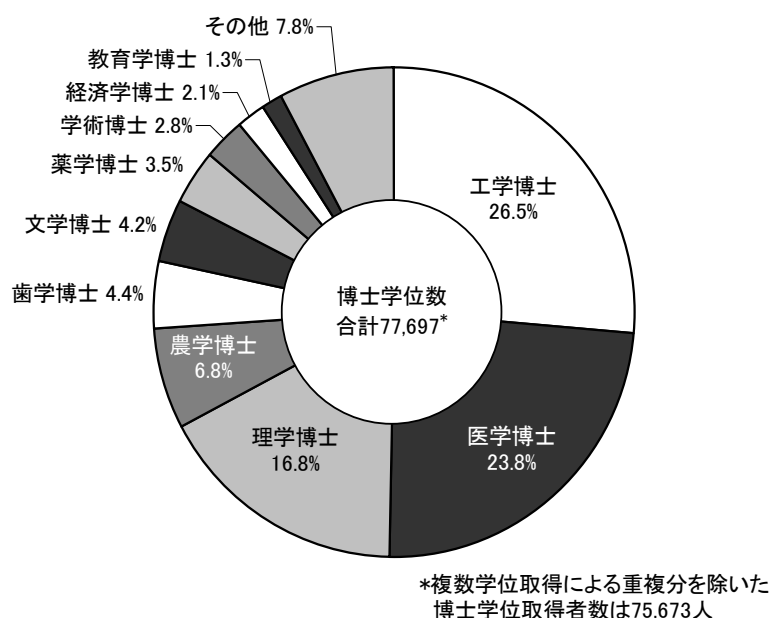


図 14 博士学位取得の状況

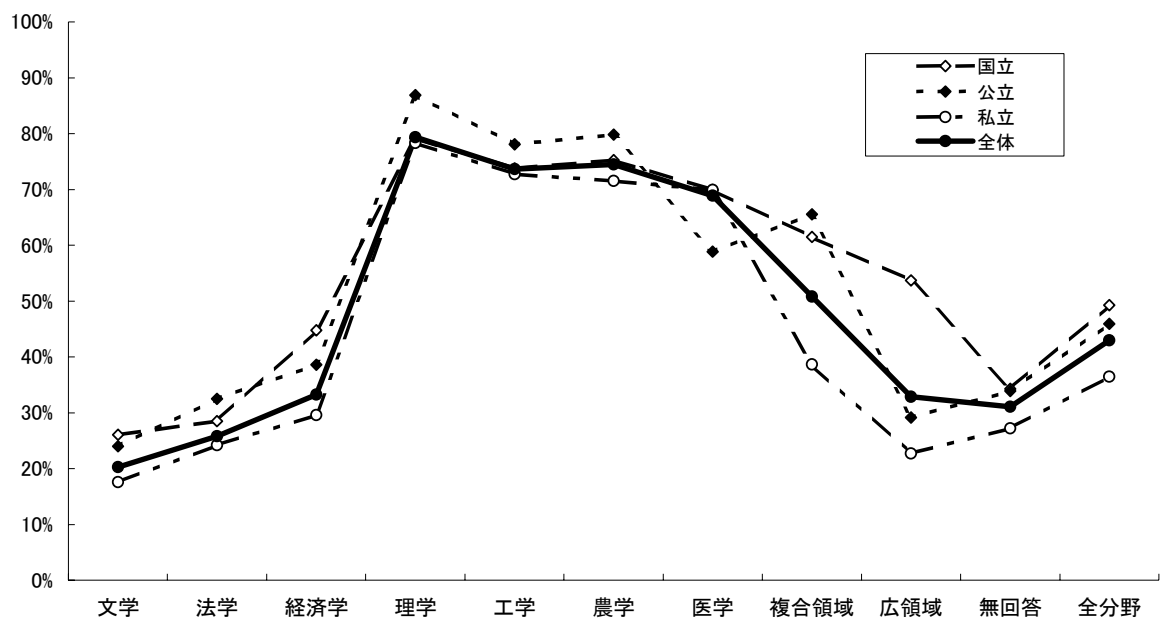


図 15 専門分野別・設置者別・博士学位取得率

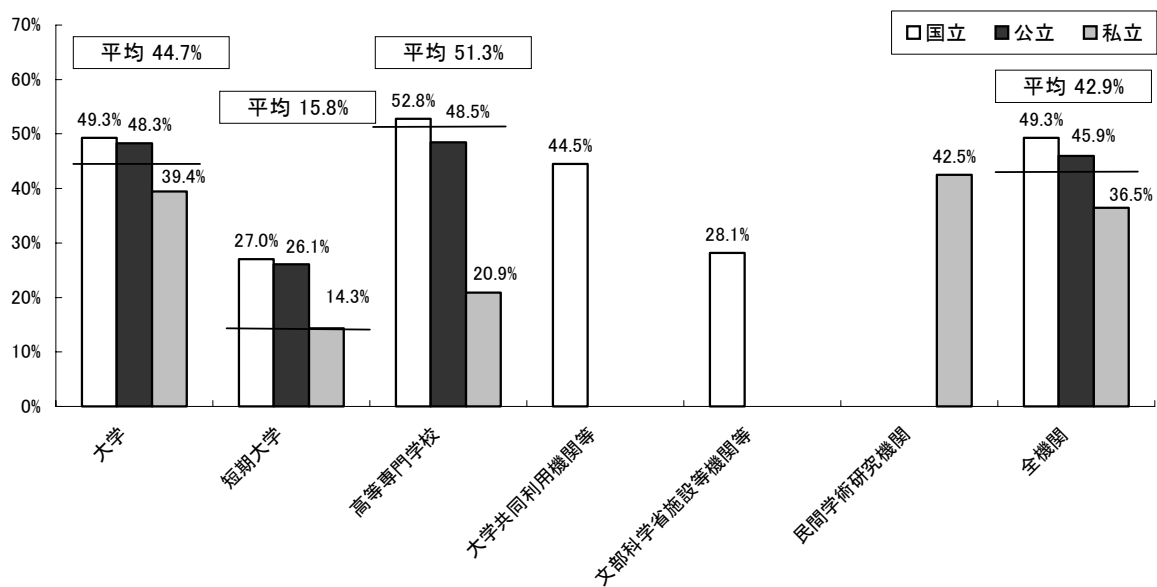


図 16 機関種別・設置者別・博士学位取得率

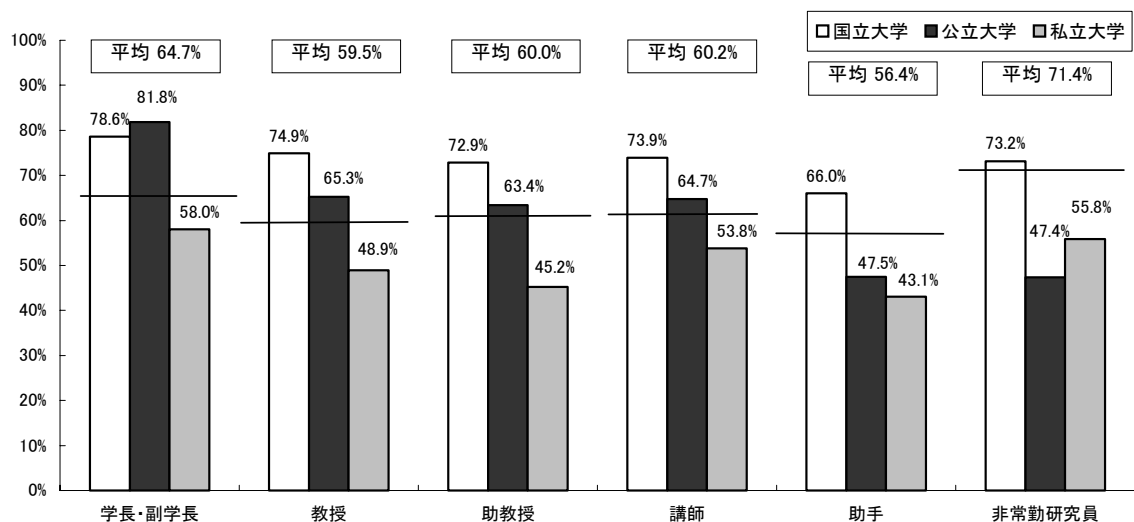


図 17 大学における研究者の職名別・博士学位取得率

表 6 大学における研究者の職名別・博士学位取得率

	職名	研究者	博士	博士取得率
国立大学	学長・副学長	103	81	78.6%
	教授	17,851	13,363	74.9%
	助教授	14,594	10,636	72.9%
	講師	3,909	2,889	73.9%
	助手	12,322	8,138	66.0%
	非常勤研究員	928	679	73.2%
公立大学	学長・副学長	33	27	81.8%
	教授	2,744	1,791	65.3%
	助教授	2,087	1,323	63.4%
	講師	1,222	791	64.7%
	助手	1,885	895	47.5%
	非常勤研究員	19	9	47.4%
私立大学	学長・副学長	300	174	58.0%
	教授	27,393	13,397	48.9%
	助教授	13,263	5,998	45.2%
	講師	9,172	4,937	53.8%
	助手	7,703	3,320	43.1%
	非常勤研究員	77	43	55.8%
大学全体	学長・副学長	436	282	64.7%
	教授	47,988	28,551	59.5%
	助教授	29,944	17,957	60.0%
	講師	14,303	8,617	60.2%
	助手	21,910	12,353	56.4%
	非常勤研究員	1,024	731	71.4%